

特別講演 1

「がん治療を変革した免疫療法：現在と未来そして我々の取り組み」

東京理科大学生命医科学研究所

炎症・免疫難病制御部門教授

松島 綱治 先生

近年の免疫チェックポイント抗体 ICB（抗 PD-1/L1、CTLA-4 抗体など）の開発により、長らく疑問視されていたがんに対する免疫監視機構の存在が確立し、免疫によりがんの治療・病態制御が可能であることが明らかになった。しかしながら、ICB の適応がん種が限定され、治療効果は不十分であるため、現在、様々な ICB と既存のがん治療薬・法との併用試験が試みられている。一方、CAR-T/TCR-T 療法などの免疫細胞療法も注目されており、がん免疫療法がん治療に大きな変革をもたらした、と言っても過言ではない。本講演の前半では、がん免疫療法の歴史・現在のがん免疫療法、さらに今後目指す免疫によるがんとの共生を目指した＝百寿まで QOL を保ち生きるための戦略について概説する。講演の後半では、我々が取り組んできた基礎免疫学研究に根ざしたがん免疫療法開発 1) 成人 T 細胞白血病・リンパ腫治療薬・抗 CCR4 抗体モガムリズマブ開発 2) 抗 CD4 抗体による同種造血幹細胞移植における GVL/T 効果を維持しながら致死性 GVHD を回避する方法の確立 3) 抗 CD4 抗体と抗 PD-1/L1 抗体併用による固形がん治療の臨床開発に関して紹介する。